

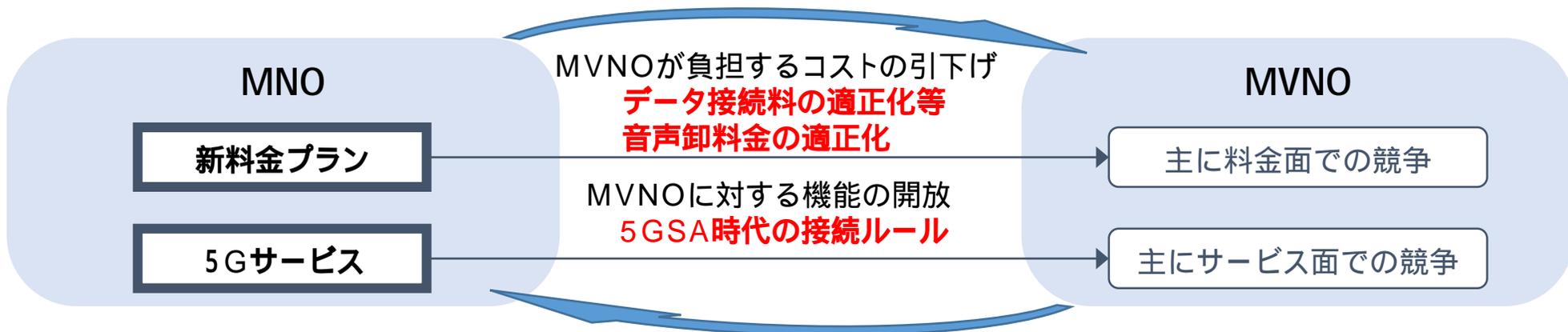
モバイル競争ルールの基本的方向性(案)

令和3年6月15日

事 務 局

モバイル競争ルール的基本的方向性(案)

～「接続料の算定等に関する研究会」第5次報告書の取りまとめに向けて(モバイル部分)～



データ接続料の適正化等

- 接続料を構成する「費用」「利潤」「需要」の算定方法が、MNOにより異なる。
- 不当廉売(小売料金 < 接続料)となっていないか等、適正性に疑義。

- 接続料の適正化に向けて、MNOに対し、より詳細な算定根拠を求める。
- 接続料水準の妥当性に関する検証(スタックテスト)の実施手法等を継続検討。

音声卸料金の適正化

- 接続メニューの開発や卸料金の引下げは行われたが、「代替性検証」の結果は保留(公正競争上の課題あり)。
- 適正な卸協議を継続的に確保できるかどうか不明確。

- 検証結果を踏まえ、MNOによる設備改修の取組等について、引き続き注視。
- 卸役務の適正化に向けて、MNOの協議への積極的関与、MVNOに対する情報開示等のルール化を検討。

5GSA時代の接続ルール

- 「接続」を中心とする4G時代から、「卸」を中心とする5G時代に移行。
- MVNOが必要とする機能・サービスを適正な条件で利用できるか不明確。

- 事業者間の協議の円滑化を通じて、MVNOの要望に応じた機能開放を実現。
- 透明性の確保に向けて、新たな機能の提供に係る事前の情報開示のルール化を検討。

MNOが能動的にMVNOとの交渉に臨むことで競争の好循環を促す仕組みが必要。

赤字については、総務省において、電気通信事業法の改正等の選択肢も含めた制度整備を検討。

接続政策委員会での議論

携帯電話料金のうち音声通話料金(特に従量制料金)について、20円/30秒(120円/3分)のまま10年以上も値下がりがしていない点や、固定電話と携帯電話の接続料が近い水準にある一方で両電話の従量制ユーザ料金に大きな格差が生じている点を挙げつつ、携帯電話市場(特に音声通信分野)において競争が十分に機能していない可能性についての指摘があった。

競争ルールの検証に関するWGでの議論

< 基本的な考え方 >

小売料金である音声通話料金は、事業者各社の料金・サービス戦略の中で決定され、多様な料金プランやオプションメニューが提供されることで、競争を通じて低廉化が進むことが望まれる。

そのためには、低廉な料金プランの先導役として期待されるMVNOを含めた市場全体として、公正な競争条件が整っていることが必要。

< 現在の競争環境の分析・問題点 >

MNO3社は実質的な音声通話料金を引き下げてきた一方で、音声卸料金については10年間引き下げてこなかった。

一部のMVNOは専用アプリの利用等により10円/30秒の従量制料金を設定しており、MVNOにおいて単価を引き下げようとするニーズは十分に存在するものの、音声卸料金が高止まりしていることで、MVNOによる競争圧力が封じられ、競争環境に悪影響を及ぼしてきた。

さらに、MNOがMVNOに提供してきた音声卸料金は、MNO自身の実質的な音声通話料金を上回っていたおそれが高く、MVNOにとっては同じ条件でサービスを提供することが不可能となるものであった。

< 事業者からの意見 >

定額制メニューの導入等により実質的な音声通話料金は低廉化が図られてきており、接続メニューの追加や、音声卸料金の見直しにより、音声サービス市場の活性化が期待される。【MNO意見】

MNOが実質的な音声通話料金を低減してきた一方で、音声卸料金の引き下げが全くなされてこなかったのは大きな問題。【MVNO意見】

MNOとMVNOの間に情報の非対称性が存在し、サービス開発のための時間的猶予が確保されていないことから、情報開示の在り方(予見可能性の確保)について検討を行うとともに、接続と卸の双方について継続的な低廉化・提供機能の拡充がなされることが重要。【MVNO意見】

< 構成員からの意見 >

これまで10年間音声卸料金が下がらなかったところ、2年ほどかけて議論を行い、あるいは大臣裁定が行われたことによって引き下げがなされたのであれば、長期的に音声卸料金が下がる仕組み作り・環境整備が必要。

独立系のMVNOとMNOとでは交渉力に大きな差がある状態。この10年間音声卸料金が下がらなかったことを考えると、卸をブラックボックスにしてきたのは反省すべき点。MNOとMVNOとの間で卸交渉が成立するような環境を整備すべきだったのではないかと。

WGでの今後の検討の方向性

音声通話サービスに限らず、MVNOの関心を踏まえ検証を要すると考えられるサービス領域において、必要に応じて関連するデータの報告を求め、接続料や卸料金の妥当性を検証すべき。

小売市場において自律的な競争が継続して機能するためには、接続メニューの追加や卸料金の見直しが一回限りで行われるだけでは足りず、継続して接続メニューの見直し(改善)や、卸料金の見直し(低廉化)が進むような制度的な枠組みを構築することが、必須の条件である。

5Gの本格的な展開が進み、これまでとは異なる様々なサービスの提供が開始する中で、MNOとMVNOの間の競争が阻害される事態を防ぐため、代替性検証の取組に加え、MVNOから指摘のあった情報の非対称性に関する問題をはじめとして、MNOとMVNOの間の協議が有効に機能してきたのか、MNO各社に卸役務を積極的に提供するインセンティブをどう与えるべきか、等これまで引下げが進まなかった要因分析を含め、別途専門的に検討を進め、速やかに所要の制度整備を図ることが必要である。